

| 臨床家としての経験年数 | この講座では、主にどのような学びがありましたか。 |
|-------------|---|
| 10年以上 | 目の前の母子の一連の行動を自分自身で感じる事 |
| 10年以上 | 母子の関係性の学びを通して自己理解に繋がった |
| 10年以上 | 自分の幼少期への気づき |
| 10年以上 | 自分と相手との間に流れるものを、改めて意識しながら日々の仕事ができるようになった。その効果はとても大きかったです。 |
| 1年未満 | 施設利用者の方々を支援する日々の中で、余裕を持って仕事をする事が出来ました。 |
| 10年以上 | 主観と客観について |
| 10年以上 | 感情の交錯する中に居続け関係性を読み取る事。 |
| 5年以上～10年未満 | 個人を理解する上で生育歴の理解を深める事がいかに重要であるか。また、個人と関わりを深めていく中で支援者がどのような心でそこに身を置くかが関係形成に影響を及ぼすということ。 |
| 10年以上 | 親子を観察し、アセスメントをするという実臨床に役立つ内容を学ぶ事ができました。 |
| 5年以上～10年未満 | よく見ること。自分の気持ちの動きに敏感になること。 |
| 1年以上～3年未満 | 子供の目に見えない部分に隠された多くの想い |
| 10年以上 | 「気持ち」に思いを馳せる姿勢 |
| 10年以上 | 臨床の場で出会う親子に対して、理屈で行動の意味を読み取るのではなく、自分の中にやってくる感じ取ったものを素直に受け取ることが出来るようになった |
| 10年以上 | 感じることの重要性。ひとりずつではなく、関係性を感じる大切さ。かなり低年齢でもかなりのことが起こっていること。 |
| 1年未満 | 親子の関係をしっかりと見ること、感じる事ができた時に、初めて、子が日々身を置いている母子関係や本当の子の気持ち・心の動きが理解できる。人の根幹の部分を理解するという事は、自分自身にも向き合い、感性を磨いていかなくてはならないことを学びました。 |
| 10年以上 | 意識的な言葉や行動よりも無意識に現れている声や動きから緊張や不安を感じとる大切さを学ばせて頂きました。最初は感じる事で自分の中からでてきてしまう過去に向き合う辛い作業があり、それを先生に支えて頂きながら乗り越えるうちに少しずつ感じる事へのバリアがなくなって、心の深いところで感じる事ができるようになってきているように思います。 |
| 5年以上～10年未満 | 親子の間の交流を一つの物語として理解することの重要性和難しさ |
| 5年以上～10年未満 | 幼児の心の動き、情動の動きを感じ取るよう試み、他の参加者の感想と講師からの教示を得て、自分の感じた点、感じられなかった点などを確認する機会を得たこと。そこから自分の感性や職場での振舞いについて考える機会を得たこと。 |
| 10年以上 | 自らの心の動きを通して関係性を感じ取ることを学びました。 |
| 3年以上～5年未満 | これから、相談室実習で母親の面接を担当する予定です。必ずその役立つと確信しています。 |